

わが国における金融教育の枠組みと課題

2014年4月8日

日本銀行・金融広報中央委員会事務局 岡崎竜子

1. 枠組み:

(1) 金融教育のための国家戦略

■わが国における金融教育の国家戦略:

a. 『金融教育プログラム』(2007)

b. 「金融経済教育研究会」報告書(2013)

金融教育の定義

- 金融教育は、
「お金や金融の様々なはたらきを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育である。」

- 金融広報中央委員会『金融教育プログラム』(2007)

1. 枠組み:

(1) 金融教育のための国家戦略

■ 国家戦略が学ぶべき内容を提示:

--- 『金融教育プログラム』(2007)は、小学校から高等学校までの「年齢層別の金融教育内容」を提示。

--- 「金融経済教育研究会」は、報告書(2013)において、国民が身に付けるべき金融リテラシー4分野15項目を提示。

1. 枠組み:

(1) 金融教育のための国家戦略

■ 金融広報中央委員会による「金融経済教育推進会議」 設置(2013年6月):

a. 目的: 金融広報中央委員会のネットワークを使った金融経済教育の推進

b. メンバー: 専門家、金融業界団体代表、関係官庁

⇒ 年齢層別に習得すべき内容の目安を策定。

学校における金融教育の目標

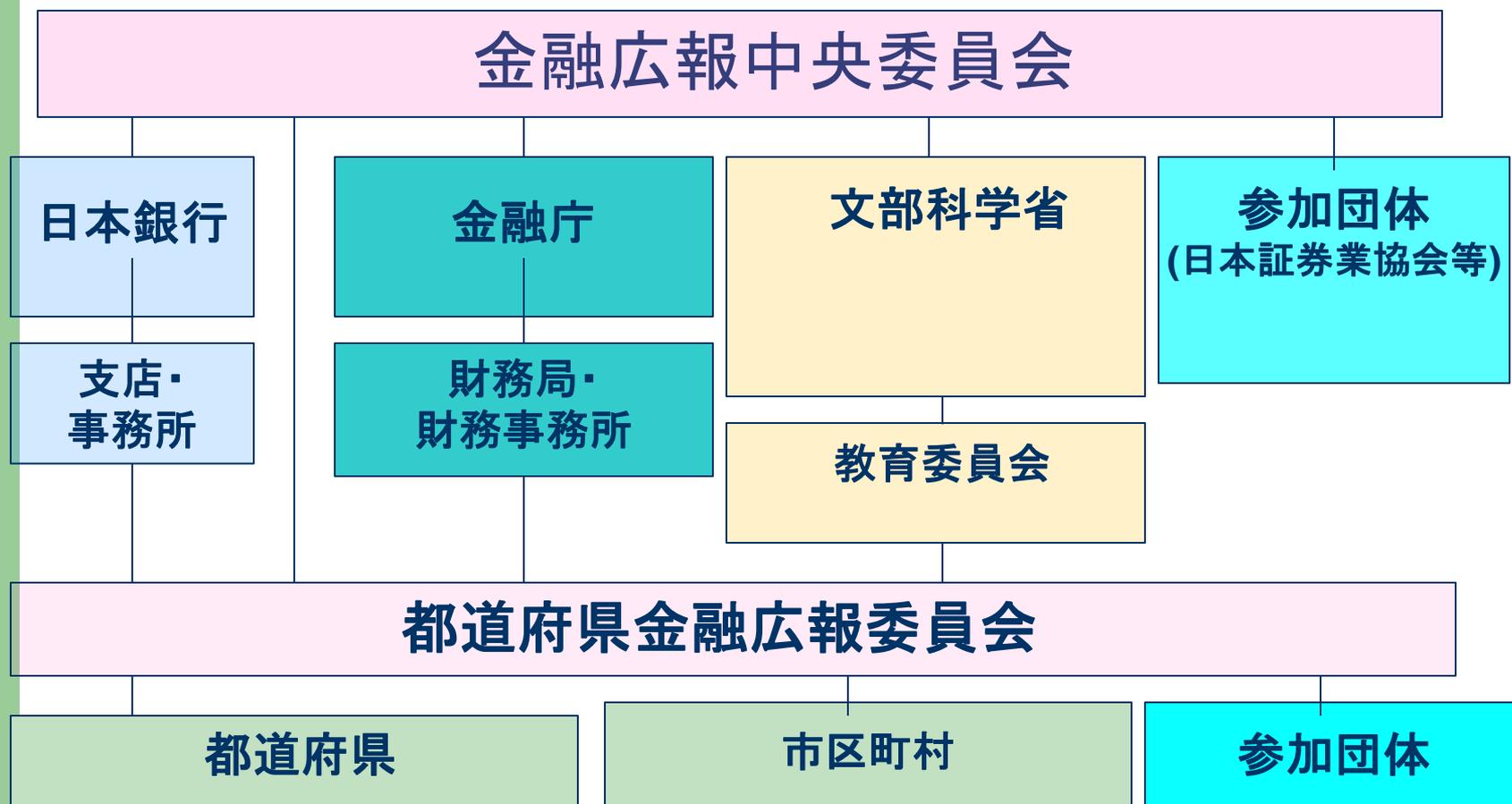
- 使える資源には限りがあることを知る。
- 意思決定の基本を理解し、実践する態度を身につける。
- 貯蓄の意義を理解し、貯蓄の習慣を身に付ける。
- 様々な金融商品のリスクとリターンを理解し、自己責任の下で運用する態度を身に付ける。
- 生活設計の必要性を理解し、将来を展望した自分の生活設計を立てることができる。 (つづく)

習得すべき金融リテラシー

- 家計管理
- 生活設計
- 金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択
- 外部の知見の適切な活用

1. 枠組み:

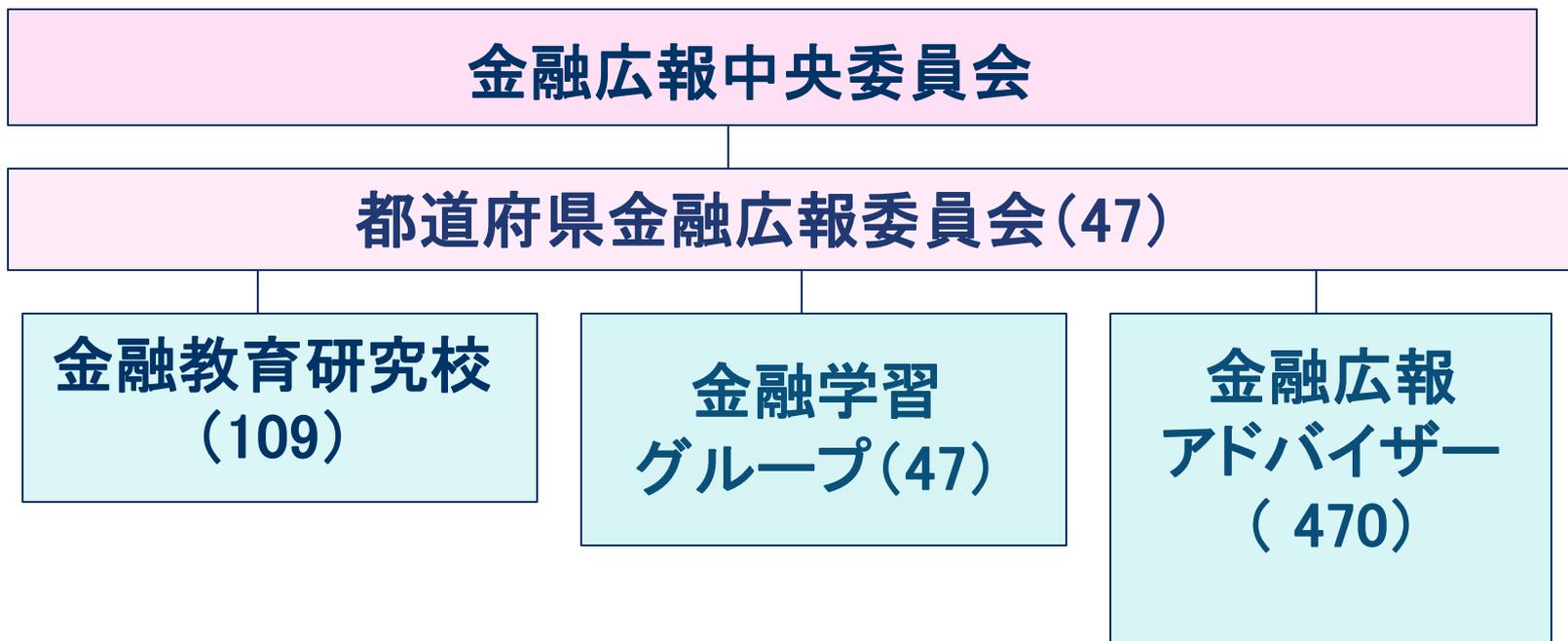
(2) 金融教育推進のための組織



1. 枠組み:

(2) 金融教育推進のための組織

■ 金融教育推進のための草の根組織:



2014年3月現在

1. 枠組み:

(3) 金融教育の推進

---金融広報中央委員会等が以下の事業を実施:

a. 教員セミナー

b. 親子のためのおかね学習フェスタ

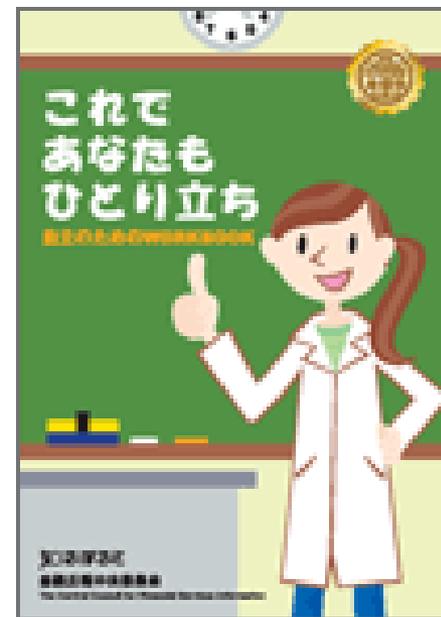


c. 作文・小論文コンクール(中学生、高校生、教員等)

d. 大人向けセミナー・講演会

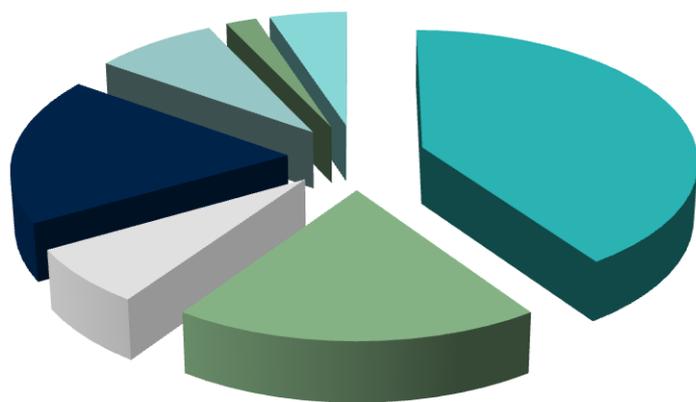
1. 枠組み: (3) 金融教育の推進

- 金融広報中央委員会が以下を提供:
 - e. 教材、教師用指導書、実践事例集
 - f. インターネット上の情報



1. 枠組み: (4) 効果測定

■「教員のための金融教育セミナー」参加者の変化

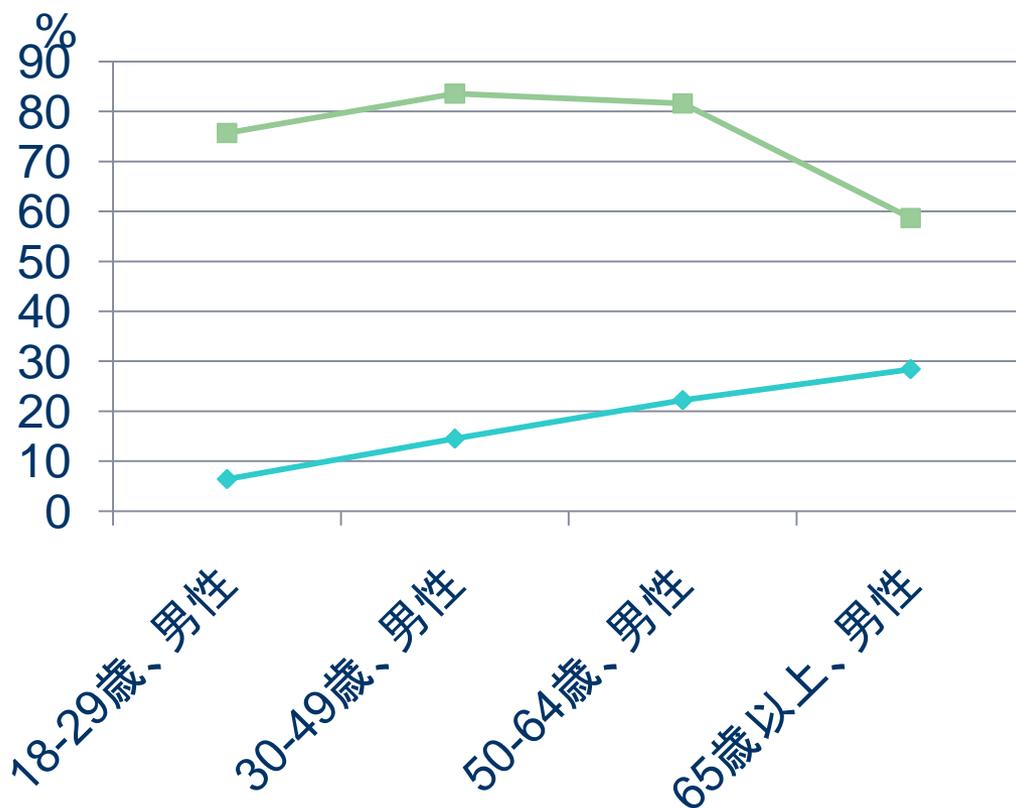


- 金融教育の必要性を強く感じるようになった(40%)
- セミナーの内容・手法を取り入れた金融教育に関連する授業を行った(19%)
- 自校の他の教員がセミナーの内容・手法を取り入れた授業を行った(7%)
- 金融教育についての意見交換を活発に行うようになった(18%)

1. 枠組み:

(5) 金融力調査(2012)

■ 焦点を当てるべき世代の手掛かり



◆ 自分の金融に関する知識や判断能力は十分高い

■ リスクとリターンの関係について(正答率)

2. 金融教育・金融知識普及を巡る課題

- (1) 高齢者への知識・情報伝達
- (2) 勤労者への知識・情報伝達
- (3) 学校におけるカリキュラムの余裕のなさ

ご静聴ありがとうございました。

お問い合わせ先:

ryouko.okazaki@boj.or.jp